

### 〈1. 現状と課題〉

- 水や緑は、人々に安らぎや潤いを与え、様々な生物を育むなど、都市にとってかけがえのないものです。本市では、この環境を大切にするため、本市の貴重な財産である海や川や緑といった自然を活かしながら、水辺空間の保全・回復・創出を図るとともに、緑豊かなまちづくりを進めているほか、生物多様性の保全と持続的な利用を進めています。

#### 【自然を活かした水辺の整備】

- 本市では、水環境の保全および再生を目的とした多自然川づくりに取り組んでおり、水辺の植生が自然に回復する環境や生物の多様な生息・生育環境の形成を図るとともに、親水性にも配慮した整備を進めています。依然としてコンクリート等で整備されたままの河川も多い状況です。
- 都市化の進展等による雨水の地下浸透量の減少は、湧水量や平常時河川流量の減少に繋がっており、水環境への影響が懸念されています。

#### 【緑の保全と公園緑地の整備】

- 本市には、河川の源流域となる斜面緑地のほか、ふなばしアンデルセン公園や千葉県立船橋県民の森など、特徴ある緑の自然環境が見られます。
- 本市では、都市緑地の開設、指定樹林の指定や市民と協働した緑の創出等を行っていますが、都市化の進展等により、本市の300㎡以上のまとまった樹林地は、平成16(2004)年から平成25(2013)年の9年間で6%減少しています。
- 本市では、都市公園面積について市民一人当たり5.0㎡を目指し、公園の整備・拡張を進めています。令和2(2020)年度末時点で3.37㎡であり、令和元(2019)年度末時点の全国の10.7㎡や千葉県の7.05㎡に比べ少ない状況であることから、更なる整備が必要です。

#### 【生物多様性の保全・利用】

- 市内の動植物について、平成11～13(1999～2001)年度と平成25・26(2013・2014)年度に実施した自然環境調査の結果を比較すると、同一地域において、確認できなくなった動植物があり、都市化に起因する自然環境への影響が顕在化しています。
- 本市では、地域特性を十分に踏まえて、今後の生物多様性<sup>(注1)</sup>の保全のあり方や持続可能な利用を進めていくため、「生物多様性ふなばし戦略」を策定し、樹林や草地、水田・湿地、河川、干潟・浅海域など様々な自然環境の保全のほか、市民や事業者と協働した取り組みや、ふなばし三番瀬環境学習館において市内全小学校を対象とした環境学習等を実施しています。

### 〈2. 施策の方向〉

#### 施策1 自然を活かした水辺の整備

市民の憩いや交流の場の創出のほか、生物の生息・生育環境や多様な水辺の景観を形成するとともに、地下水のかん養や流域内の保水機能を確保するため、多自然川づくりや調整池<sup>(注2)</sup>等を活用した水辺空間の整備を推進します。

##### 当施策における主な取り組み

- ◆ 多自然川づくりの推進
- ◆ 調整池等を活用した水辺空間の整備
- ◆ 海老川調節池<sup>(注3)</sup>の多目的利用の促進

#### 施策2 緑の保全と公園緑地の整備

本市の特性を踏まえた景観や水と緑のネットワークを形成・維持するとともに、市民が豊かな緑を感じられるよう、樹林地等の緑を保全・活用するほか、公園緑地の整備を推進します。

##### 当施策における主な取り組み

- ◆ 樹林地等の緑の保全・活用
- ◆ 公園緑地の整備、施設の改修

#### 施策3 生物多様性の保全・利用

生物多様性の保全のため、市内の動植物の生息状況を把握し、自然環境の保全の施策に繋がります。

本市の生物多様性の保全及び持続可能な利用<sup>(注4)</sup>に係る意識を醸成するため、市民・事業者に対して環境に関する情報発信を行うほか、環境保全活動や環境学習等のイベントを実施します。

##### 当施策における主な取り組み

- ◆ 生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する普及啓発・人材育成
- ◆ ふなばし三番瀬環境学習館の活用等による環境学習の促進と三番瀬の保全